

分科会1 第3学年

内容項目：C-(10) 遵法精神、公德心

教材名：「缶コーヒー」

授業者：尾道市立向東中学校

司会者：尾道市立尾道みなと中学校

記録者：尾道市立高西中学校

指導・助言：広島県西部教育事務所

教諭 槇野 太洋

教諭 向井 智英子

教諭 柏原 貴子

指導主事 安東 祐介

1 授業について（授業者より）

生徒は普段より大人しく硬い様子が見受けられた。もう少し自分がコントロールできたのではないかと反省している。指導案については当初導入を3パターン準備していたが、他クラスでのプレ授業を通して、共感・反応の良かった「給食」に絞った。3人の登場人物について振り返っていく場面では、共感できる・できないという感情を可視化させるために数直線を用いた。法で罰せられることのない事象をどのように捉えるのかをもう少し考えさせる時間を確保できたらよかった。本校ではホワイトボード使ったまとめと対話を実践している。本年度はその活用の仕方を昨年よりブラッシュアップさせながら進めている。生徒が書いたホワイトボードの内容を、めあてやテーマに沿った形で深めさせることができなかったことが反省点である。まとめと振り返りでは、時間は超過してしまっただが、めあてに即した振り返りになっていたので安心できた。

2 質疑応答

質問：指導案の生徒アンケート結果で、「ルールを守れない人に対して指摘をすることができる」の項目は74.2%と他の項目より下回っている。今回の授業では、「公共のマナー」がテーマになっていたが、主人公の「私」の「指摘したいけど言えない気持ち」をテーマにした方がよかったのではないかと。

回答：3人の登場人物それぞれの気持ちを考えさせることで、自分自身の行動変容につながるのではないかと、という思いから今回の授業の構想をした。

質問：①対話を重視した授業づくりで学校はどう変化したのか。

②ワークシートの工夫がされていたが、生徒から回収したワークシートはその後どのように扱うのか。

回答：①道徳以外でも対話の場面を積極的に設定している。毎週水曜日に「深めたいワード」で意見を出し合うという取組を行っている。それにより、グループワークを行う際に、自然と対話を深められるようになってきている。

②普段はノートを使用しているが、今回は思考を深めさせるためにワークシートを採用した。ワークシートは該当のページに張り付けてポートフォリオにしている。

3 協議

意見：協議の柱①について、本当にこの中心発問でよかったのか。「ルールを守れない人に対して指摘をすることができる」が74.2%という実態に応じて、言いたいけど言いにくいという自分事として考えさせ、一人一人が周りのことを考えた行動をとらなければならない、という態度形成の授業展開ができたのではないかと。

意見：協議の柱②について、学校で取り組んでいる「深めたいワード」を活用し、グループ内の話し合いの場で、生徒同士で「なぜ？」という問いが自然と出ていた。数直線で自分の思いを可視化することで、自分と他者との意見の違いがわかりやすく、対話が広まっていた。

4 指導助言

〔本日の授業で参考にしてもらいたい点〕

・「自分とのかかわりで道徳的価値を深めたこと」
榎野教諭は三者の言動について、共感できるか、できないかについて問うたことにより、他者の多様な考え方に触れ、他者理解を深めることができた。

・「生徒一人一人の感じ方や考え方が異なることを前提として授業を設定されたこと」

教師が特定の登場人物の言動や心情について考えさせるのではなく、それぞれが考えたい、または考えやすい立場は一人一人異なることを前提に授業設計されているため、道徳的価値やよりよい生き方について多面的・多角的に考えることが可能となった。

・「主体的な学びを促す工夫」

授業の導入で、生徒が日常生活の中で遭遇する場面を取り上げ、本時で取り上げる道徳的価値について問題意識を持たせ、ホワイトボードに三者の相関図を示し教材理解を促し、学級全員が道徳的価値について考えが深められるように支援したこと、中心発問に対して自己をじっくり見つめられるようにするための書く活動の時間を十分に確保したこと。

〔更に充実を図っていただきたい点〕

・「生徒の実態を踏まえた意図的なファシリテート」

生徒は日ごろからきまりやルールを守ろうとしているという実態から、登場人物の「女性」の立場ではなく、「私」や「竹内さん」の立場について自分との関わりで考えさせることを重視することも可能であった。その際は、生徒がホワイトボードに書いてあった内容から、問い返しを行い、ファシリテートしていくことが必要である。

